

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

情報・技術ワーキンググループ(第5回)

意見

福田 順子

資料3「中学校情報・技術科(仮称)及びにおける目標、内容と高次の資質能力について」事務局からの御提案について、賛同いたします。

そのうえで、小・中・高の情報活用能力の抜本的向上を体系性・系統性を鑑みた時に、さらにより良きものにできたらと思い、コメントさせていただきます。

P24 について

高次の資質能力の記述を見ると、(1)では「自動化する情報処理の手順を設計し、」(3)「情報システムを構築し、」などの記述があり、「プログラミング教育」が多く取り入れられているように見受けられます。ぜひ、情報活用能力がプログラミングに偏らず、小学校で身に付けてきた様々な要素の情報活用能力が、バランスよく育っていくという体系性をわかりやすく示せるとよいのではないかと思います。

そのため、今後の具体的な内容の話とともに、ということになると思いますが、情報活用能力の3つの要素の中の各要素の体系的な学びが、小学校・中学校・高等学校でどのように繋がり、具体的にどのような内容で深まっていくのか、その結果としてどのように情報活用能力が抜本的に向上していくのか、小・中・高等学校の教員が互いに参照可能な一つの大きな体系図として、表されていくと、それぞれの発達段階でのゴールイメージが現場の先生を含む誰にでも分かりやすくなり、それぞれが子供たちを送り出す先や育ってきた道のりを意識して情報活用能力を育成していけるようになるのではないかと思います。

P25の(4)総合実習については、小学校の総合的な学習の時間とどのように繋がっていくのか、また、情報・技術科(仮称)で学んだことが中学の総合的な学習の時間を含む各教科等で発揮されていくのか、などについてもわかりやすく示していけるとよいと思いました。